三七一二番

ぬばたまの　妹が乾すべく　あらなくに　我が衣
手を　濡れていかにせむ

三七一三番

もみち葉は　今はうつろふ　我妹子が　待たむと
言ひし　時の経行けば

三七一四番

秋されば　恋しみ妹を　夢にだに　久しく見むを
明けにけるかも

三七一五番

ひとりのみ　きぬる衣の　紐解かば　誰かも結はむ
家遠くして